

「青少年フェスティバル」 廣光 梅子（拝島第一小地区・10期目）

12月3日、青少年フェスティバルが市民会館・公民館で開催されました。コロナのために3年ぶりでした。開会式で、市長の挨拶と「昭島大好き」の合い言葉でフェスティバルが始まりました。例年は11月に開催されていましたが、今年は12月になり、「寒さ」が心配されました。しかし当日は天気も良く、大勢の人に来ていただき、どのブースも大賑わいでした。

私たちスポーツ推進委員は、駐車でストラックアウト、チャレンジ・ザ・ゲーム、輪投げ、レクリエーションボッチャを担当しました。いつものことですが、ストラックアウトは列をつくっていました。1球当たる毎に歓声が上がり、飛び上がって喜び子どもや親もいて、大賑わいでした。チャレンジ・ザ・ゲームのコーナーでは、ネットパスマリーを幼児と親が組んで楽しそうに、その微笑ましい光景に見ていた私たちもうれしくなりました。

輪投げで幼児には、投げる距離を短くしたりして、それぞれの年齢に合わせて行っていました。今回から始めたレクリエーションボッチャも上々な人気でした。普段あまりやったことがないゲームもあり、どのコーナーもそれぞれに楽しんでいました。ケガ人もなく、天気も良かったので、盛り上がった楽しい青少年フェスティバルでした。



「新春駅伝」 松本健太郎（玉川小地区・1期目）

初春の候、少し冷える澄み渡る空の元、昭島市長の「昭島大好き」のご発声とピストルの合図で走り出しました。今大会は、148チームが参加しました。

毎年、正月明けに行われるこのイベントは、私自身が新春始めとして楽しみにしており、同時に今年も1年が始まったと実感する瞬間です。

私はかつて、小学生の時から中学生までの7年間、倶楽部チームや学校の部活に所属し、野球をやってきました。

また、高校から大学までの7年間、ラグビー部をやっていました。練習の中で、この駅伝大会と同じ中距離をよく走っていました。練習で走る中距離は本当にきつかったです。

この駅伝大会には、中学生から一般の方、高齢者まで毎年多くの方が参加され、走っているときはきついと思うのですが、走り終わった後の満足そうな顔を見ると、きつと苦しさを忘れて達成感に満ち溢れているのだと思います。そんな姿を見ると本当に感動させられます。これが昭島市民のスポーツ大会の心髄であると思います。

子どもから大人まで皆が一つの競技に平等に力を発揮することが出来る、見ている人を楽しませ、感動させられる競技で

あること、どこの行政にも負けない昭島市のスポーツ大会はこれではいけないと思います。

我々、昭島市スポーツ推進委員会として、これからも老若男女、健全者でも障害者でも皆が平等に楽しめるスポーツ大会を企画して参ります。



編集後記

スポーツ推進委員会では年間2回の広報誌を発行し、様々な活動を紹介し少しでも市民の皆様楽しんでいただける機会を設けております。

3月で任期が終了する委員もおりますが、今後とも昭島市のスポーツ推進委員活動にご協力をお願いいたします。

編集委員 川口・細井

川口・細井